

中学校教科等研修講座(数学科)

教科等指導員 北中学校 教諭 長谷 慎一

担当指導主事：水津 和雅

キーワード：小中連携 ICT活用 出前授業 わかる授業 若手教員の育成

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題(またはテーマ)
1月31日(火)	北中学校 長谷 慎一 教諭	総合教育センター 講話および演習	「活用する力を伸ばす授業の工夫」

2 主な内容

(1) 授業実践「正負の数」について

小学校6年生にとって、「算数」から「数学」へスムーズに移行していく「きっかけの場」とするため授業を行った。(伊丹市立伊丹小学校6年 6月22日(火)実施)

① はじめに

自己紹介を含め、北中学校数学科の取組(数学オリンピック)を紹介し、中学生がチャレンジしている問題のおもしろさを伝える。

② 導入

ア 「黒の数」と「赤の数」を用い、クイズ形式で計算のルールを探らせた。

※ $A \cdots 1$ (黒) + 2 (黒) = 3 (黒) $B \cdots 8$ (赤) + 6 (赤) = 14 (赤) $C \cdots 8$ (黒) + 4 (赤) = □
イ □に何が入るか(数と色)を個人で考えさせ、分かった児童の答えを個別に聞いた。

③ 展開

ア 自分の考えた計算のルールをワークシートに記入させ、その後グループでお互いの意見を出し合わせた。自分の考えを言えることができているか、相手の話を受け入れ、考えを深められているかを中心に確認しながら机間指導をおこなった。

イ グループで出た意見を順に発表させ、それぞれが考えた計算のルールを聞きあつた。

④ まとめ

優れた考えをまとめたグループの言葉を用いて板書した。また、資料(自作の解説スライド)を電子黒板で提示し、色の違いと計算のルールについて説明した。

(2) 「活用する力を伸ばす」授業実践交流

① 参加者の1, 2学期の授業実践の振り返り

ア 生徒に実物を使ってイメージ化させるための工夫について

イ 生徒が作図する場合のICT活用について 等

② 情報交換から新たな課題についての意見交流

ア 苦手意識を持つ生徒に対する接し方について

イ 授業導入時に使用する教具や発問の工夫について

③ 次年度の取組内容について

授業公開および実践交流の場の設定の工夫



3 成果と課題

(1) 成果

① 中学校の取組内容である「出前授業」を行うことで、小学校との連携を図ることができた。

内容に関しても「算数」と「数学」の関連性を学ばせる授業構成にできた。

- ② 日頃の中学生を対象にした授業と比べ、小学校の児童を対象に授業を行うことで、内容説明をするときにはより丁寧に行う必要性を感じ、教具の使い方についても熟考する良い機会となった。また、自分自身が小学校の現状を把握することもできた。
- ③ 「若手教員による模擬授業」を設定することで、若手教員の意識の高まりを感じた。「今後の授業で研修会で学びを活かしたい」という声がたくさんあがった。

(2) 課題

- ① 小学校への出前授業については事前に案内を広く出し、多くの教員に参加してもらう必要を感じた。
- ② 「若手教員の模擬授業」の設定及び研修内容、対象教員について検討していく必要がある。